

校区の概要（学校の位置 東経130.6 北緯30.3 標高820m）

本校区は宮崎県との県境にあり、面積8600ha、八代市の東端、泉町の五家荘の中でも最も奥地にある。本校区から他へ通じる道は険しく、町民センター（泉町支所）まで約40km、八代市内（市教委）まで約70km、人吉市まで約70kmと遠い。かつては徒歩に頼るしかなく、平家の落人伝説等とあいまって、古くから「秘境の地、五家荘」として知られている。

昭和44年9月、学校までの道路が開通し、以前に比べ交通の便がよくなった。有線放送（昭和36～37年）、電灯（昭和38年12月）、公衆電話（昭和39年10月）、地域集団電話（昭和49年9月）、一般加入電話（昭和55年11月）、地域ケーブルテレビ（平成17年4月）、衛星電話（区長宅に設置：平成18年度）等、電気・電信関係は非常に便利になり、携帯電話も平成19年4月より一部通じるようになった。

また、本校区は九州中央山地国定公園の中にある。平成元年に「平家の里」、平成5年4月には「溪流キャンプ場」がオープンし、社会教育や観光面でも期待されている。さらに古くから「紅葉と吊り橋」を中心にして、観光の中核として活気に満ちているため、都会よりUターンしてくる人も出てきた。全面積のうち民有林は5000ha、ほとんど雑木の自然林である。焼き畑の跡地に杉や檜の植林が盛んな時期もあったが、輸入材の増加により林業従事者は減少した。近年、雑木の保水力や環境浄化力が注目されている。また、美しい景観を求めて、この地を訪れる人も多くなっている。今後さらに道路の整備が待たれるところである。

校区の人々は純朴勤勉、他に依存せず、自立の心が強い。自然の条件が厳しい中であって山里の恵みは多く、人々の心も温かい。自給用に野菜を栽培している家庭は多いが、稲作は少ない。

本校はへき地4級であり、児童は本校を卒業すると泉中学校へ進学し、親元を離れて寮生活を送らなければならない。進学後も小学校や地域との結びつきは強く、週末に帰宅すると小学校にも屈託なく訪問する。高校卒業後は就職して都市部へ出る傾向が強い。したがって、地元に残る青年はわずかであり、高齢化が進んでいる。本年度は2名の新入生があり、児童数は8名である。平成11年度から増加を続けていた児童数は平成16年度18名をピークに減少しつつあるが、3学級を今後も維持する。他地区が休校している現状からすれば、特筆すべき特徴である。その理由の一つとして考えられるのが「樅木神楽」の存在である。本校が児童神楽に取り組んで30余年になる。近年、熊本県文化財保護大会で功労者表彰を受けたり、県立劇場や太宰府天満宮での舞いを奉納したり、昨年度は九州PTA研究大会のアトラクションで児童、保護者、神楽保存会、本校職員で神楽を舞う等、大勢の前での発表を数多く経験した。児童も自信をつけ、何事にも積極的に取り組むようになった。伝統文化の継承という価値観を共有することで家庭・地域・学校の連携は確固たるものになっている。

職員は男性5名で、通勤が不可能なため全員が校区内に単身赴任で居住し、店舗がないため毎週土日に帰宅し、食料や生活用品をその都度調達している。また、職員も地域に溶け込むべく、指導を仰ぎながら神楽を日夜練習し、樅木地区の天満宮大祭（10月25日）では「くまもと教育の日」の行事として校長以下全職員、全児童で神楽を舞い、地域と連携するようになっている。